



**東京大学 公共政策大学院 医療政策教育・研究ユニット**

**Health Policy Unit (HPU)**

**医療政策実践コミュニティー**

**Health Policy Action Community (H-PAC)**

**活動のご紹介**

**(2011 年度)**

**2012 年 1 月**

**H-PAC 運営事務局**



## ■東京大学 公共政策大学院 医療政策教育・研究ユニット(Health Policy Unit=HPU)の活動内容

**教育活動:** 東京大学公共政策大学院において「医療政策」「事例研究」の講義を行います。

**研究活動:** 医療政策における喫緊の課題に関する研究を行います。

**社会活動:** 医療政策実践コミュニティ(H-PAC)の主幹と公開シンポジウムの開催を行います。

## ■HPU 運営体制

東京大学公共政策大学院と大学院経済学研究科の教員・研究員により運営されております。

【**スタッフ**】埴岡 健一 客員教授／井伊 雅子 特任教授／辻 哲夫 特任教授／関本 美穂 非常勤  
研究員／吉田 真季 特任研究員／古屋 絢子 特任研究員

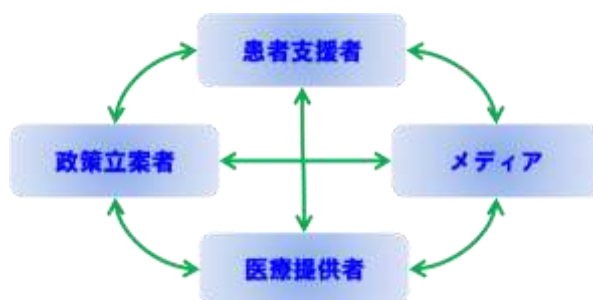
【**運営委員**】岩本 康志 教授／林 良造 教授／伊藤 隆敏 教授／交告 尚史 教授／大橋 弘 准教授

## ■寄付企業・団体

グラクソ・スミスクライン(株)、(財)社会保険健康事業財団、日本イーライリリー(株)、(株)グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン、MSD(株)、ヤンセンファーマ(株)の寄付を基に、2013年3月までの約3年間設置されます。(企業名は申込順)

## ■医療政策実践コミュニティ(Health Policy Action Community=H-PAC)の活動内容

「医療を動かす」をミッションに掲げ、患者・市民、政策立案者、医療提供者、メディアの4つの立場から医療政策分野においてリーダーシップを発揮している社会人(学生も可)の参加者を募ります。医療政策の最先端課題を学び、さらに実践的なグループ活動により、政策提言や事業計画作成を行います。なお、大学の卒業資格や学位、単位などとはなりません。



## ■H-PAC 運営体制 (2011年度現在。12年4月以降の2期は一部変更になることがあります)

### 【外部アドバイザー】

大熊 由紀子氏(国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科教授)【**メディア**】／勝村 久司氏(医療情報の公開・開示を求める市民の会、前中央社会保険医療協議会委員)【**患者支援者**】／高本 眞一氏(三井記念病院院長)【**医療提供者**】／信友 浩一氏(福岡市医師会成人病センター院長)【**政策立案者**】

### 【メンター】

堀見 洋継氏(初台リハビリテーション病院)【**医療提供者**】／前村 聡氏(日本経済新聞社)【**メディア**】／三田村 真氏(日本造血細胞移植学会評議員)【**患者支援者**】／渡邊 清高氏(国立がん研究センターがん対策情報センター)【**医療提供者**】

### 【HPU内部アドバイザー】

埴岡 健一〔東京大学公共政策大学院 HPU客員教授〕／岩本 康志〔東京大学公共政策大学院教授〕／井伊 雅子〔東京大学公共政策大学院 HPU客員教授〕／辻 哲夫〔東京大学公共政策大学院 HPU客員教授〕／中島 勸〔学内協力教員／東京大学医学部附属病院〕／吉田 真季〔東京大学公共政策大学院 HPU特任研究員〕／古屋 絢子〔東京大学公共政策大学院 HPU特任研究員〕

## ■H-PACプログラム概要

グループ研究と勉強会を並行して進めることがプログラムの特徴です。いずれも、東京大学本郷キャンパス内の会議室・セミナー室等において、ほぼ毎週の水曜 19～21 時に開催しています。

### 〈1〉グループ研究

- H-PAC参加者が研究グループを形成し、自ら設定するテーマについて期限内に成果物として取りまとめ、社会に向けて発信・提言することを目的としています。各研究グループには、1人の筆頭研究者をおき、研究メンバーとして4つのステークホルダーから各1人以上が参画することを必須条件としています。
- 毎週水曜の定例時間帯に打ち合わせ会場を設けるほか、各グループが自発的に集い、話し合いやフィールドワークを進めています。また、インターネットなどを活用した議論も積極的に行われています。
- 年度末の成果物提出期限に向けて、各グループ主体で研究を推進します。その間事務局では、担当者によるアセスメント(全3回)、中間報告会の場を設けて研究の進捗支援を行います。
- 成果物の形態は、以下を想定しています：  
審議会等報告書の対案、政策提言書(行政向け)／立法向け要望書(国会議員、議員連盟など向け)／事業・非営利活動計画書／学術論文／書籍出版／ウェブサイト構築／シンポジウム等の開催
- 成果物の審査・評価は、以下の6軸に沿って行います：  
ステークホルダー協業によるシナジー／テーマの重要性・喫緊性／実践・実現可能性／視点や切り口の新規性・独創性／論理性・実証性／表現力・訴求力
- 成果物は可能な限り社会に向けて公開していく方針です。



勉強会風景



グループ研究風景

### 〈2〉勉強会

- 異なる背景をもつ参加者が、講義を通じ、医療政策・制度・システム等に関する基礎的知見を共有することを目的とします。現在の医療において取り組むべき課題、医療政策を立案する上で基盤となる考え方や手法のなかから15程度のテーマを設定し、各テーマを専門とする気鋭の講師を招聘しています。
- 各勉強会の前半では講師からのレクチャー、後半では主に4ステークホルダーの混在する班にわかれてのグループワーク(講師の提示する課題についてのグループ討議)を行っています。グループワークでの討議結果は全体で共有し、グループ研究に繋げることを目指しています。
- 勉強会後は自主的な懇親会や学習会が開かれ、インフォーマルで活発な議論が展開されています。

第1期勉強会のテーマと講師（12年4月以降の2期はテーマや講師が変更になることがあります）

	テーマ	講師（敬称略，所属・肩書きは開催当時）
基盤編	2010年度の医療政策総括	前村 聡（日本経済新聞社 記者） 林 敦彦（朝日新聞社 記者）
	リーダーシップの旅	野田 智義（ISL 代表）
	医療・福祉財政論	可部 哲生（財務省 主計局 主計官 厚生労働担当）
	医療倫理	糸 和彦（熊本大学発生医学研究所 准教授）
	ともに生きる医療	高本 眞一（三井記念病院 院長）
手法編	日本の政策決定プロセス	曾根 泰教（慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 教授）
	政策評価	宮田 裕章（東京大学大学院 医療品質評価学講座 准教授）
	社会調査・研究倫理	高橋 都（獨協医科大学公衆衛生学講座 准教授）
	医療と市場・経済	齊藤 誠（一橋大学大学院経済学研究科 教授） 松井 彰彦（東京大学経済学研究科・経済学部 教授） 井伊 雅子（東京大学公共政策大学院 HPU 客員教授）
実践編	超高齢化社会と地域医療	辻 哲夫（東京大学公共政策大学院 HPU 客員教授）
	医療と福祉の連携	大熊 由紀子（国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科 教授）
	市民主導の医療	勝村 久司（医療情報の公開・開示を求める市民の会） 埴岡 健一（東京大学公共政策大学院 HPU 客員教授）
	医療の質と情報	埴岡 健一（東京大学公共政策大学院 HPU 客員教授）
	地域主体の医療	信友 浩一（福岡市医師会成人病センター 院長）
	医療と安全	児玉 安司（東京大学公共政策大学院 公共政策学連携研究部 特任教授）

### 〈3〉公開シンポジウム

HPU/H-PACの活動の一環として、これまでに2回の公開シンポジウムを開催しました。

#### ○2010年度

2010年6月26日、HPUの創設を記念し、シンポジウム「医療の質はどこまで見えるか ～データ活用で拓く将来像～」を、東京大学本郷キャンパスの鉄門記念講堂にて開催しました。医療の質の改善と均てん化（あまねく質の高い状況）の実現は、医療における現在の最大課題のひとつであり、そのためにはデータの活用が鍵となると考えられます。このテーマに関して、医療提供者、政策立案者、有識者、ジャーナリストと異なる立場の4人が基調講演をしました。医療の質と結びつけた診療報酬の支払い方法、データに基づいた診療報酬算定の可能性、在宅医療や地域医療における患者の生活の質を評価する方法など、課題の打開策に向けた新しい視点を含む重要な論点が示されました。

その後のパネルディスカッション「医療の質は見えるか」では、医療の質を測るデータの利用方法に関して具体的な提案も行われるなど、活発な議論が展開されました。

## ○2011 年度

2011 年 10 月 10 日に、「医療政策の喫緊 2 テーマを考える」と題した公開シンポジウムを、東京大学小柴ホールにて開催しました。診療報酬・介護報酬、医療計画という日本の医療の根幹を形成してきた 2 つの仕組みが改定され、今後の医療のあり方が方向づけられる局面を迎える中、4 つのステークホルダーが集い、認識を共有した上で、多様な観点からの意見を集約し、実践の方向性を共に考える場とすべく、企画いたしました。

パート 1「診療報酬編」では、現状と課題について政策立案者・患者支援者の立場から講演いただき、その後のパネルディスカッションにおいて、医療提供者・メディアの方も加わり、いま必要な診療・介護報酬改定を議論しました。また、パート 2「地域医療計画編」では、医療計画見直しの議論の概要、地域の医療機能を知ったうえでの計画立案に必要なデータベースの紹介、東京および石巻での地域医療の実践例の報告、を講演いただいた後、患者支援者・メディアの立場の方も参加し、パネルディスカッションを行いました。

150 人以上の方にご参加いただき、満席のフロアからの発言も交えた活発な議論が展開されました。



公開シンポジウム開催風景

## ■H-PAC 第1期 参加者

「患者支援者」「政策立案者」「医療提供者」「メディア」の 4 つの立場から募集し、経歴と小論文の内容に基づく採点委員会による審査・選考を経て、41 人を選考しました。

内訳と参加者の主な所属等は次のとおりです。なお、参加者の居住地は首都圏にとどまらず、遠隔地から参加する方も複数います。

**患者支援者** 10人(患者団体主宰者、医療事故被害者支援団体主宰者ほか)

**政策立案者** 11人(厚生労働省中堅職員、現職国会議員、県知事経験者、現職市長、自治体職員、経営コンサルタントほか)

**医療提供者** 12人(医学部教授、在宅診療医、看護師、保健所職員、医療ソーシャルワーカー、職能団体政策担当職員ほか)

**メディア** 8人(全国紙部長、全国紙一線記者、テレビ局デスク、テレビ局一線記者、専門誌編集者ほか)

## ■H-PAC1 期生 参加者の声（各ステークホルダー 50 音順、敬称略）

### 〈患者支援者〉

**伊藤 雅治** 患者の声に医療政策を反映させる  
あり方協議会事務局長（全国社会保険協会連  
合会理事長）



政権交代による政治主導で医療政策の将来展望  
が開かれるのではという国民の期待は失望に変わった。2030 年の将来  
予測をみれば、負担と給付の関係について国民的な合意形成が喫緊の  
課題である。社会保障と税の一体改革も、負担増はことごとく先送り。い  
まこそ、4 つのステークホルダーが集う H-PAC が具体的な提言で国を動  
かすことが国を救う。

**花井 十伍** NPO 法人 ネットワーク医療と人権  
理事、中央社会保険医療協議会委員



人々が医療について語る言葉の作法は、専門用語、  
行政用語、日常言語など千差万別であり、とすれば同  
じ事を語っているつもりが相互に前提を誤認したまま議論がすすむことさ  
えある。もし、医療においてその言葉の量の膨大さにもかかわらず、コミ  
ュニケーションの実質が損なわれているとしたら、日本の医療は何によっ  
て何処に誘われてゆくのだろうか。その答えを見つげられる場所が  
H-PAC である。

**鈴木 信行** 患医ねっと代表

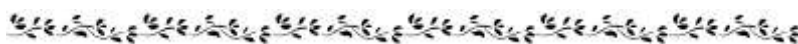


医療を変えるという意気込みが空回り。個人ではど  
んなによいアイデアでも実現できません。それをこの講  
座に参加することで、変わりました。複数のステークホ  
ルダーが集まり、お互いが理解し、ホンネを言い合い、そして同じ思いの人  
がアイデアをブラッシュアップ。考えていたことがようやく実現しそうです。  
みんなが平等の立場で、医療改革を「実践」していく。そのような素敵な場  
を、これからも大切にしていきたいです。

**宮脇 正和** 医療過誤原告の会



医療過誤で死亡した娘の命を、何としても再発防止  
につなげたいと願い、28 年間医療過誤問題に取り組ん  
できました。H-PAC に参加して楽しいことは、講師陣が  
医療政策の視点を広げてくれるのを実感できること。もっと楽しいのは、講  
義後の居酒屋で毎週講師・受講者が思いを率直に交流出来る事。立場を  
超えた政策作りの手ごたえがあります。



### 〈政策立案者〉

**高岡 志帆** 厚生労働省大臣官房国際課課長補佐

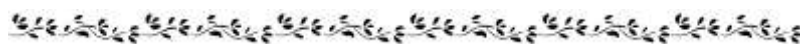


厚生労働省でアレルギー対策やがん対策等を担当し、  
患者と一緒に施策を進めていくことの必要性や重要性を  
認識しました。H-PAC において、患者を含む他のステ  
ークホルダーの方々から学ぶことは大変多く、1 年間の研究課題を行うにと  
どまらず、今後も医療政策に関する意見交換を重ねる大事なネットワーク  
としていきたいと思っています。

**長沼 明** 埼玉県志木市長



H-PAC では、楽しく勉強しています。毎回の講義  
では、各分野の一流の講師陣が演壇に立たれるの  
で、医療政策以外の分野でも、政策立案のヒントを  
もらっています。また、H-PAC には、各界の専門家がステークホルダー  
として参加しています。H-PAC で知り合ったメンバーに、志木市で開催  
する「医療・健康セミナー」の講師もお願いしています。



### 〈医療提供者〉

**太田 凡** 京都府立医科大学 救急医療学教室  
教授



新しい学びとともに意見を戦わせ、知恵を絞り合い、そ  
して互いを思いやるという経験は、医療に対する自分の  
想いを確実に変えました。「医療を動かす」「一人称で語る」という言葉が  
より具体的になりました。そうした HSP4 期生としての経験をもう一度い  
たいただきたいと願い、現在、H-PAC1 期生として京都から東京に通っており  
ます。

**川越 博美** 医療法人パリアン 看護部長

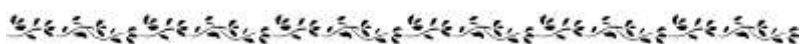


在宅緩和ケアチームの一員として働く訪問看護師  
です。家で過ごすがん患者を医療者だけで支えること  
に限界を感じ、「市民」と「行政」と「サービス提供者」  
がどのように協働できるか、その方法を学びたくて H-PAC に応募しまし  
た。専門家の奥深い講義を聞き、立場の違う仲間たちと、机上の空論で  
はなく現場を動かす政策づくりをめざして、意見を戦わせ、理解しあう醍  
醐味を味わっています。H-PAC での学びと出会いは政策を変え、現場  
を変える力になりました。

**園田 愛 医療法人社団鉄祐会/一般社団法人  
高齢先進国モデル構想会議 事務局長**



高齢社会日本の不安要因の一つを孤立した老いに  
あると捉え、人々が安心して老いることのできる地域社  
会システムの構築に、在宅医療の現場から取り組んでいます。H-PAC の  
場で、第一線にて活躍される方々と交わり、異なる立場ながらも、ひたす  
らに「日本の医療をよりよいものにする」ために知見をぶつけ合い知恵を  
絞りあうことは、さながら新たな社会を産み出すプロセスの縮図であり、そ  
こでの経験や得た仲間は、必ずや自身が「社会を動かす」ための糧となる  
と感じています。



**〈メディア〉**

**田中 秀一 読売新聞社会保障部長**

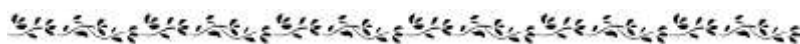


「医療基本法をつくる」という抽象的・理念的なテーマ  
と、「首都圏の小都市を舞台に新しい医療モデルをつくる」  
という個別具体的な、二つの研究テーマに携わりました。  
医療提供者、患者支援者、法律家など様々な立場の受講者との侃々の  
議論は、得がたいエキサイティングな体験で、医療問題に対する見方を  
深めることができました。

**八十島 綾平 日本経済新聞社会部医療班 記者**



様々な医療にまつわる問題取材の中で「ステーク  
ホルダー間のコミュニケーションのあり方を変えなければ  
ならないのでは？」と思い続けていました。様々な立場の  
同期と腹を割って話し合うなかで、漠然とした疑問がやがて構造的にとらえ  
られるようになり、一方で、医療に関する諸課題の奥深さ・幅広さにも気づ  
かされました。ニュースの書き手として、貴重な視点を得ることができたと感  
じています。



**長谷川 幹 三軒茶屋リハビリテーションクリニック  
医師**



医療政策実践コミュニティでは、国内外で活躍され  
ている講師から刺激的な新たな視点・知識が得られるだけ  
でなく、4つのステークホルダーが「医療を動かす」視点で議論、実践する  
ことにより、様々な発見、視野の拡大など実践的な宝庫であるのが大きな  
魅力です。ぜひ飛び込んでみてください。

**南 宏美 朝日新聞東京本社科学医療部 記者**



不安に駆られてドクターショッピングする患者を何人  
も見てきました。なぜ必要な医療情報を最適なタイミン  
グで得られる仕組みがないのか。疑問に思いながら何  
もせずしていました。記事になるかどうかで物事を判断し、自分で壁を作  
っていました。けれど、他のステークホルダーと協働する機会に恵ま  
れ、その壁を越えられそうです。自分の限界を超えたい方、ぜひ参加  
をお待ちしています。

**山崎 真一 NHK報道局社会部 記者**



我が子の病気がきっかけで医療と向き合うよう  
になり、この国の医療には変えなければならないことが  
あると気づいてH-PACに飛び込んだ。「医療は変え  
られる」、そんな情熱に溢れた方々との出会いが、どれだけ刺激になった  
ことか。知識だけでなく、モノの考え方を学び、何より立場の違う志ある  
方々との出会いがこれからの人生に大いに役立つと確信している。

**【問い合わせ先】**

**東京大学 公共政策大学院 医療政策教育・研究ユニット(HPU)**

**医療政策実践コミュニティー(H-PAC)**

**〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1**

**電話:03-5841-7879**

**E-mail [h.pac.jp.info@gmail.com](mailto:h.pac.jp.info@gmail.com)**

**URL <http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/HPU/> (「東大 HPU」で検索)**

**\*\*\*原則として電話によるお問い合わせはご遠慮ください\*\*\***